



2022年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」助成金

2022年度
「きらり☆」看護技術を学べる
～地元創成看護を担う看護師
リカレント教育プログラム～
報告書



神戸市看護大学 看護師リカレント教育運営プロジェクト

目次

ご挨拶

I.神戸市看護大学・リカレント教育

- 1.プログラムの概要
- 2.プログラムの特徴
- 3.プログラムの構成
- 4.開講日程と方法
- 5.対象
- 6.実施体制

II.実績報告

- 1.開催状況
- 2.アンケート結果
- 3.事業まとめ

※外部講師一覧

※プロジェクト運営グループ

ご挨拶

神戸市神戸市看護大学は、2019年4月に法人化し、新たな歩みを始めました。公立大学法人神戸市看護大学は、「保健医療に関する質の高い教育研究活動に取り組み、その成果を絶えず地域社会に還元すること、および豊かな教養と看護の専門性を備えた実践力のある看護人材を育成することを通じて、学術の発展と市民の保健、医療および福祉の向上に寄与すること」を目的としています。

この目的に向かって持続的・発展的に活動できる全学的な中核機関として、2021年4月に「いちかんダイバーシティ看護開発センター」を開設しました。

本センターには現在、8つのグループがあります。具体的には、地域連携グループ、健康支援グループ、在宅ケア支援グループ、国際交流グループ、保健師キャリア支援センターグループ、地域保健支援グループ、臨床看護連携グループ、および災害看護グループです。

それぞれのグループが看護の専門分野を活かしながら、組織横断的に取り組むことで、年齢、性別、人種、国籍、宗教、価値観、ライフスタイルの異なる人々が、共に生きる地域社会の中で、個人を尊重しつつ、コミュニティーのもつ豊かな可能性の実現を目指して活動しています。看護師のリカレント教育事業は、臨床看護連携グループに位置づけられています。

地元創成看護を担う看護師リカレント教育プログラム「きらり、看護技術を学べる」を文部科学省の令和3年度「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に応募したところ、採択されました。本教育プログラムは、神戸市看護大学、神戸市民病院機構、兵庫県看護協会、専門的技術の民間協会等の協力を得ながら、受講生の方々がそれぞれのニーズに沿って、最新の看護技術や知識を学べるように、講義・演習、インターンシップを組み込んだ約3か月のプログラムになっています。また、受講しやすいようにオンライン授業を取り入れ、教育効果を考慮し、技術演習やインターンシップは対面で行いました。

本教育プログラムについての受講生のアンケート結果では、これまでの自分の看護を振り返る機会となり、看護実践への自信につながったことや、就職・転職意欲の向上につながったことがわかりました。このプログラムでの学びや培ったネットワークを受講生の皆様の今後のキャリアに活かして頂ければ、幸いです。

この成果を今後を活かし、事業を継続していけるように努力していきたいと思っております。

臨床看護連携グループ代表 二宮啓子



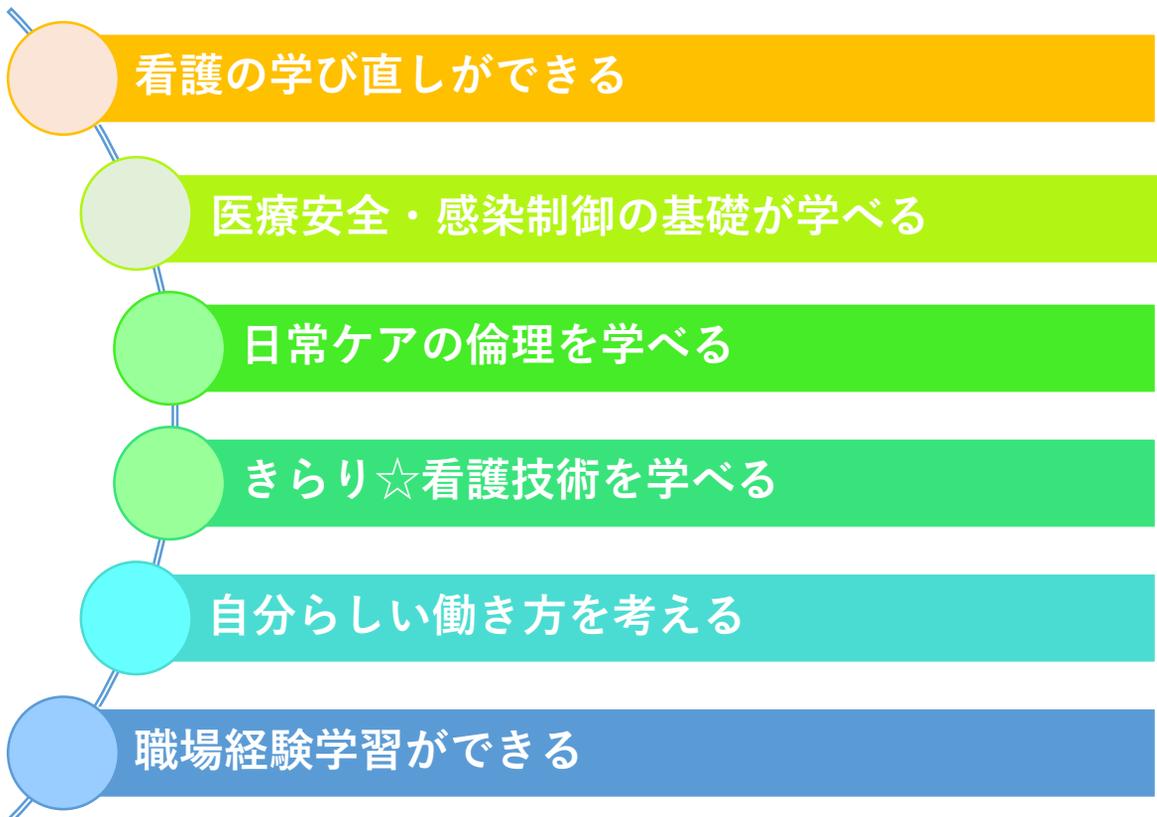


I. 神戸市看護大学・リカレント教育

1. プログラムの概要

- 1) 就職・転職・正規雇用を目指す看護師向けのリカレント教育プログラムです。
- 2) 患者さんや利用者さんに安心や幸せを届けられる「きらり☆」とした看護技術を一緒に学ぶことを重点に置いています。
- 3) 今後の働き方を一人一人が考えられる授業や、働き方をイメージできる機会を設けています。
- 4) 育児・介護、働きながらなどでも参加しやすい、オンライン授業を多く取り入れています。
- 5) 質問や疑問に対応する、双方向の授業を行います。

2. プログラムの特徴



3.プログラム構成

表1. 教育課程の概要

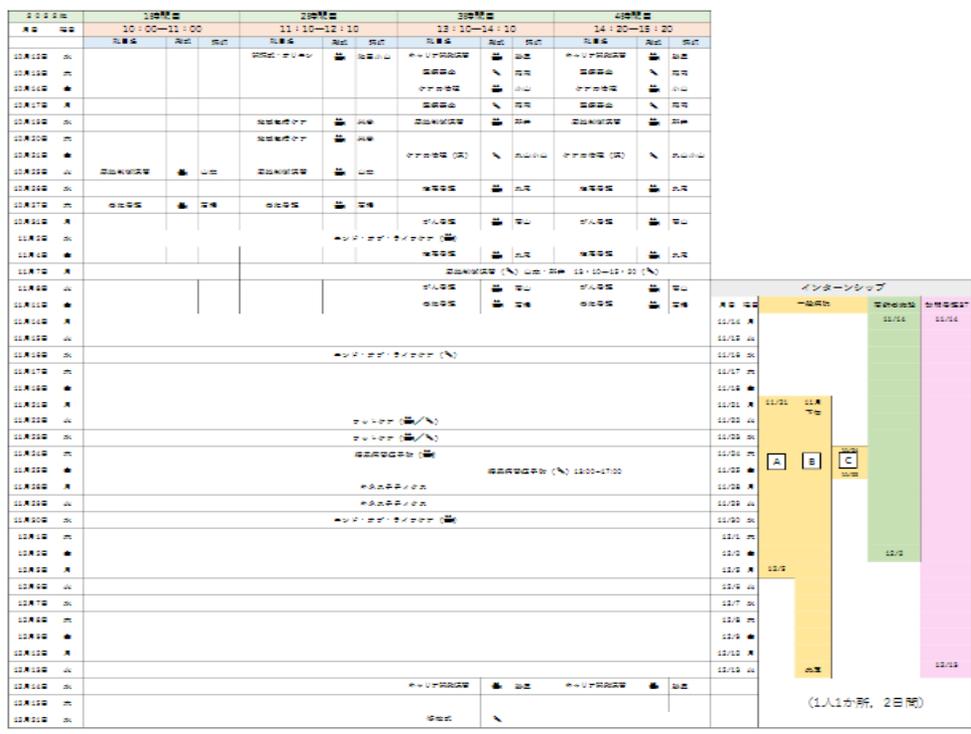
	科目名	必修	選択	形式(※注)	教員 ※実務家	所属
地域包括ケア	地域包括ケア	2		遠, 双	外部講師 (依頼中) 小山富美子	神戸市立医療センター 神戸市看護大学
	在宅看護	1科目以上選択	4	遠, 双	丸尾智美	神市看護大 (在宅看護学)
	老年看護		4	遠, 双	石橋信江	神市看護大 (老年看護学)
	がん看護		4	遠, 双	高山良子※CNS	神市看護大 (慢性病看護学)
看護とケア	ケアの倫理	4		対, 双	小山富美子※CNS 外部講師	神市看護大 (慢性病看護学) 神戸市立医療センター
医療安全	医療安全	4		遠, 双	安全対策室勤務看護師 依頼中	神戸市立医療センター
	感染制御演習	6		対・遠, 双	感染管理対策室勤務看護師 2名	神戸市立医療センター
看護技術	フットケア (10名)	2科目 選択	12	対・遠, 双	池田清子 外部講師	神市看護大 (慢性病看護)
	キネステイク (10名)		12	対・遠, 双	柴田しおり 外部講師	神市看護大 (基礎看護)
	糖尿病腎症予防 (10名)		12	対・遠, 双	畑なかあかね※CNS 小山富美子※CNS 外部講師	神市看護大 (慢性病看護)
	ELNEC-J (エンドオブライフケア) (10名)		12	対・遠, 双	高山良子※CNS 外部講師	神市看護大 (慢性病看護学) 医療機関等
キャリア開発	キャリア開発演習	4		遠, 双	鎌谷 幸 外部講師	神市看護大 (基礎看護)
	インターンシップ	12		対, 双	林、堤、石橋、丸尾 実習協力施設	神戸市立医療センター 神戸市看護大学

(60時間)

※注: (遠) 遠隔、(対) 対面 (対・遠) 対面/一部遠隔 (双) 双方向 神市看護大 神戸市看護大学

4.開講日程

2022年度 地元看護を担う看護師リカレント教育 時間割表



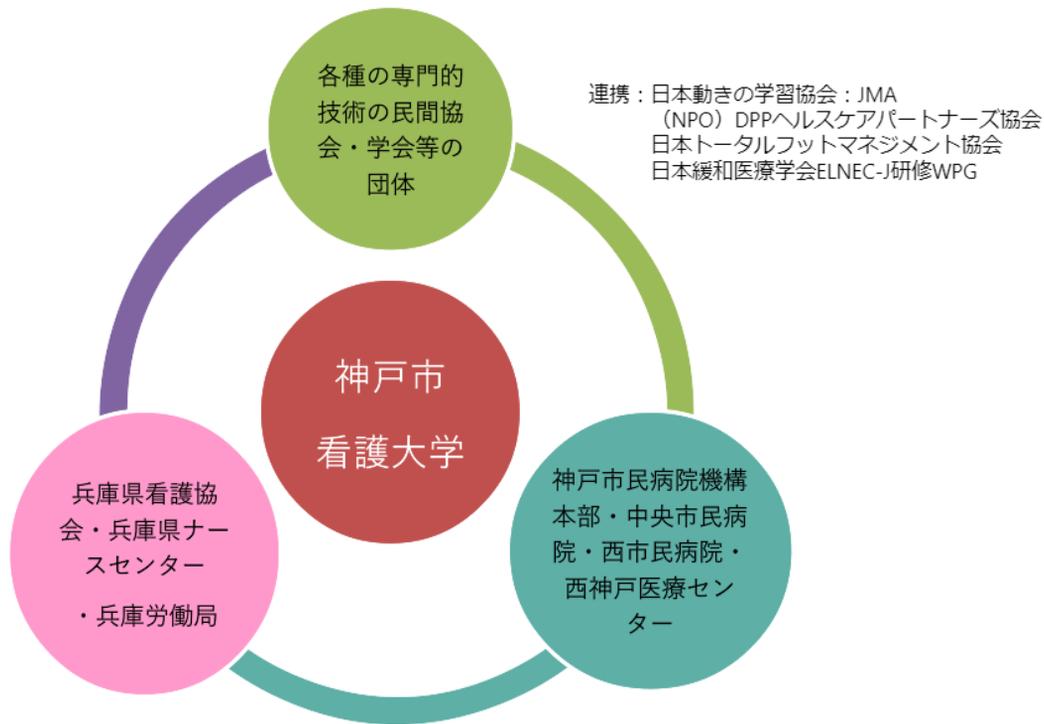
【インターンシップについて】
 A 実習協力施設 B 実習協力施設/インターンシップ C 実習協力施設
 ※実習協力施設は、神戸市看護大学と連携している施設です。

5. 対象

- ①正看護師の資格を有する方
- ②70歳未満の方
- ③以下の条件の方
 - ・復職・就職希望がある
 - ・非正規雇用から正規雇用を目指す
 - ・新しい職場を探している
- ④阪神地域に就職希望の方

6.実施体制

事業の実施に際しては、兵庫県看護協会、本学と連携協定を締結している神戸市立病院機構、本プログラムの看護技術の研修を担う各種の民間の協会や団体と連携し、講師派遣、演習を行います。また、兵庫県看護協会のナースセンターと緊密に連携し、潜在看護師を対象に広報活動を行うとともに、本プログラム終了後もフォローアップの連携を行います。



Ⅱ. 実績報告

1. 開催状況

(1) 地域包括ケア

- 講師：米谷久美子（神戸市立医療センター中央市民病院 地域医療連携課）
共同企画者：小山富美子（神戸市看護大学）



- ・近年のコロナ禍の地域包括ケアの実際と基礎知識を学びます。
- ・地域包括ケアにおける看護師の役割を考えましょう。

・患者さんを中心に、自施設だけでなく地域の中で連携していくことを前提に医療を考える時代になっていると学びました。

・兵庫県の地域医療体制が実際にどのように変化しているのかは特に興味深く、最近の病院統廃合の背景も知ることができ、少し視野が広がったように感じました。

・今後、訪問看護ステーションか、老人施設で働こうと考えていますが、ここまで、しっかりと計画たてて次につなげていっていることに関心を持ちました。

・事例の中でのチームとしての関わり方のプロセスが葛藤も踏まえてとても明確でイメージしやすく考えを深めることが出来ました。

・患者・家族の発言（「家に帰りたい」「施設は無理だから病院で」）をそのまま受け取るのではなく、その真意を受け止め打開策を探していった試みはとても参考になりました。

(2) 在宅看護論

- ・ 講師：丸尾智実（神戸市看護大学）



在宅看護の知識を
アップデートしま
しょう！

- ・ 在宅看護に関する政策や制度、在宅という生活の場で行う看護の特徴や役割、他職種との連携について学びます。
- ・ 地域包括ケアの推進に伴って在宅で働く看護師の活躍が期待されています。そんな在宅看護の魅力をお伝えします！

- ・ 高齢の方から全世代に拡大していく、地域・在宅看護の対象。そして家族、生活を考慮して看護を行っていく、生活のそばにいる看護師という存在の在り方についてとても考えさせられました。
- ・ 臨床看護よりも複雑だと感じるとともに、施策を把握して必要な支援を受けられるようアセスメントできる力が重要だと思いました。
- ・ 今の地域医療体制の現状ととてもリンクしていることが具体的にわかり、アンテナを高く持って知っておくことの重要性を実感しました。
- ・ 個々の要介護者とその家族の価値観を本当に大切に考えてくださっているのだと思いました。
- ・ 訪問看護の方がさらに患者家族との関係が密になる為、生活の中に取り込めるよう支援するために、より確かな情報、できる事と出来ないこと、環境、その人の背景などを把握することが大事だと感じました。昔とは違い在宅での看護はかなり充実した環境になってきていることもよくわかりました。

(3) 老年看護

- 講師：石橋信江（神戸市看護大学）



- 最新の高齢者や認知症を取り巻く状況と共に、高齢者に関する基本的な知識をおさえた上で、認知症を持つ高齢者とその家族の看護を中心に高齢者看護を学んでいきます
- 終了時には、早く高齢者や認知症の人と関わりたい！と思える自分を目指します。

・みなさんがお持ちの「強み」を知れたらいいなと思いましたし、こちらも感受性がないと気づけないだろうとも思いました。

・「問題解決型思考」ではなく「目標志向型思考」での看護をと繰り返し話されていたのが印象に残りました。生活者としての対象者を支える、対象者の強みを活かす関わりについても意識してみたいと思います。

・亡くなる瞬間までその人らしさ、潜在能力をひきだしてさしあげることの大切さを考えた。亡くなったあとも、尊厳に満ちたお見送り、グリーフケアの大切さまでも考えるような思考となった。

・少しは知識を得た分、サポートできる気がします。看護の基本となるものが終結されているものだと再度感じました。老年の看護にこれからもかかわって行きたいです。

(4) がん看護

- 講師：高山良子（神戸市看護大学）



- ①がん看護の基本的な考え方、
 - ②新しいがん治療と看護、
 - ③がん患者の心理社会的苦悩と支援
 - ④がん患者家族の看護
- を中心に、受講生の課題や希望を取り入れながら授業を展開したいと考えています。
- ・終了時には、がん患者さんと家族に自信をもって関わられるようになることを目指します。

・臨床からしばらく離れていたもので忘れかけていたことも多く、また新しい医療のことも知ることができてよかったです。半歩先を予測し支えるための知識や技術が必要で、自己研鑽をもっともっと続けていけないといけないなと身が引き締まりました。

・共感とは生じるもの、まきこまれていると気づくセンサー、前回の講義で自分の戸惑っていた事が解決に向かって行くように思いました。

・がんサバイバーシップという言葉聞いて、私に関わっているのは、治療を経て慢性期へと移行した時期であり、日常生活に折り合いをつけていらっしゃるのだと感じました。がんと共に生きていく患者様の捉え方の気づきをいただけた気がします。

・がん治療について、私が知らなかった言葉や現在のがん患者さんを取り巻く社会的状況（癌サバイバーなど）、家族看護の考え方まで、たくさんのお話を教えていただきありがとうございました。

(5) ケアの倫理

- 講師：小山富美子（神戸市看護大学）

丸山浩枝（神戸市立医療センター中央市民病院）



- ・患者さん、利用者さん、周囲の人々の人権を守る行動とは。
- ・日常の看護の場面で直面する、倫理的問題とは。
- ・倫理的問題に対応するには。

- ・倫理についてさまざまな視点から学び振り返ることができよかったです。みなさんの体験についていろいろ聞いたことで、倫理的やジレンマの問題の説明がより具体的にイメージでき分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ・自分の過去の経験と照らし合わせながら理解を深めることが出来ました。
- ・改めて倫理の重要性がわかり、再学習する事で、自分の看護を深めたいと思いました。
- ・今までの経験の中でモヤモヤしていた思いを振り返り、整理する機会ができてとても有意義でした。

(6) 医療安全

- 講師：稲岡佳子（神戸市立医療センター中央市民病院 医療安全管理室）
共同企画者：小山富美子（神戸市看護大学）



日常の看護場面における安全確保行動と、事故発生時の行動を学ぼう！

- ・体験する事が多くて楽しかったです。
- ・医療安全について事例や演習を通して具体的に学べてよかったです。
- ・人の錯覚や思い込みが医療事故やミスに繋がる事をあらためて実感した。ワークを通して、いかに自分も思い込みや錯覚があるかわかり、これからの業務にするにあたり、常に念頭に置いて従事したい。
- ・カルテの電子化前に離職しているので、今の記録についてや、医療安全について大切なことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・実践から離れているため、記録の重要性が、改めて理解でき、今後の仕事に活かしていきたいと思います。

(7) 感染制御演習

- 講師：山本達也（神戸市立医療センター中央市民病院 感染管理室）

新井まゆ子（西神戸医療センター 感染管理室）

共同企画者：小山富美子（神戸市看護大学）



ケアの受け手や実践の場における感染のリスクを知り、実践に活用しよう。

- ・働き始めてから、系統立てて感染対策を学んだことがなかったので、大変勉強になりました。根拠から消毒方法も教えていただいたので、職場に合わせて、応用しながら実践していきたいと思います。
- ・感染対策、感染制御を行う中で技術の中にある看護の考え方を強く感じ取ることが出来ました。正しく感染症を恐れて看護師として働いていきたいと感じました。
- ・これから再就職した際に今回学んだことを活かして自分や患者さん、周囲の人を守れるように意識したいです。
- ・今後の臨床の場面で、今どういう意味で手指消毒や個人防護具を使用しなければならないのか考える時に、今までより自信を持って選択できるようになったと思います。
- ・感染対策は、頭で理解していることと、習慣として日々実践できているかは別だということが、とてとても身に染みる分野だなど、改めて実感しました。

(8) フットケア

- ・ 講師：西田壽代（日本トータルフットマネジメント協会）
- ・ 共同企画 池田清子（神戸市看護大学）



- ・ フットケアの基本を学びます。
- ・ 足の健康は、全身の健康（からだ、こころ、社会）につながります。
- ・ 清潔ケア・爪ケア・角質ケア・保湿・マッサージなど、専門家と一緒に安全で心地良いケア技術を学びましょう。

・とてもブラッシュアップになりました。フットケアは2日間講習演習で参加しましたがこの際、資格を取ってフリーランスで実践もしてみたいと、強く思いました。

・最近、在宅分野で働いていて、爪切りを求められることも多く、また足に問題を抱えた方に出会いケアに悩むことも多くて、ずっと学びたいと思っていた分野だったので、今回基本からしっかりわかりやすく学ばせていただけて嬉しいです。

・足からその人の生活の質を大きく変えることができるのだと学ぶことができ、とても魅力を感じました。今後の自分の復職にあたってどのように活かしてていくか、じっくり考えてみたいと思いました。

・歩くことで困っている方に、医学的治療でない、フットケアを行うことで、症状改善が出来て喜んでもらえ、施錠者としても嬉しく、自分にスキルが付くことで自信が持てるということを知りました。

・明日から職場で役立ちます！

(9) キネステティック

- ・ 講師：谷口奨,小原健太郎（日本動きの学習協会：JMA）
- ・ 企画・調整：柴田しおり（神戸市看護大学）



- ・ 「人の動き」を6つの視点でまとめた概念 **kinesthetic** を体験的に学びます。
- ・ 人の自然な動きについて理解を深めることで、楽に動くことを支援することが可能になります。
- ・ 「動かす介助」から「動きを引き出す介助」へ・・・相手を尊重した楽な動きの支援は、あらゆる日常生活行動を円滑に行うことにつながります。

JMA ホームページより引用

<https://www.j-ugoki.com>

- ・ 人間の体の構造筋肉と骨の役割を知ること、患者さんや対象者の方に楽に介助ができ、また介助者も楽に介助ができる事を体験しわかりました。
- ・ 体も心もリラックスすることが大切だと言うことがよくわかりました。呼吸を意識するなどリラックスするための技術をもっと知りたいです。
- ・ 介助する時、相手ばかり動かそうとしてたなと講習の体験を通して学びました。自分の体にも無理のないやり方で続けていける可能性を感じました。
- ・ 教科書的な正しさではなく、残存機能を活かして本人の能力を引き出す関わり方、少しでも本人の力を阻害しない行動の言語のやり取り、そしてそれが自分の手の感覚からも理解できたことはとても自信となりました。
- ・ 動く方も軽く、介助も楽に、を体感できて、楽しく学ばせていただきました。一つずつの概念もおもしろかったかったですし、動きを見る視点が学べたので、ぜひ応用編も受講したいです。

(10) 糖尿病腎症予防

- ・ 講師：吉田薫里、荒木美名子（DPPパートナーズ講師）小山富美子、池田清子（神戸市看護大学）
- ・ 共同企画：畑中あかね（神戸市看護大学）



糖尿病患者さんが、
合併症（糖尿病腎症）
を予防できる力を支え
る看護師になろう！

- ・ DPPパートナーズは、疾病管理ナースを育成し、自治体などの糖尿病腎症重症化予防事業に参画している事業者です。演習では『疾病管理ナース養成講座プログラム』を行います。
- ・ 糖尿病性腎症の病態と治療に関する知識
- * 患者・家族に対するセルフマネジメント教育のスキル
- * 介入開始時・面談指導時のロールプレイなど、様々な看護場面に活用できる具体的な内容の研修です

- ・ 患者教育がメインにすることで健康 医療費などの間にも関係していることがわかり、予防の大切さを理解しました。
- ・ データヘルス計画について、病院の中とは違う視点で健康へのアプローチ、社会保障費の減少を目指していることを学ぶことができました。
- ・ 糖尿病性腎症重症化予防というトピックスを中心に療養保健指導について詳しく学べてよかったです。糖尿病に関しても詳しく学び直すことができ、わかりやすいスライドでよかったです。
- ・ 保健指導はこれまでに実施したことがありませんが、自己効力感を高めるように伴走していくことの大切さを感じました。
- ・ グループワークでの意見交換ができてよかったです。
- ・ 問題点を把握すること、患者さんの療養行動を引き出すこと、難しいですが復習して次回の演習に臨みたいです。

(11) エンド・オブ・ライフケア

- ・ 講師（ELNEC-J指導者）：高山良子（神戸市看護大学）、藤原由佳（あさんてはな訪問看護ステーション）、向井美千代（兵庫県看護協会）、篠崎智子（加西市民病院）、鶴屋邦江（新生病院）、正井志穂（神戸市立西神戸医療センター）



・ ELNEC（The End-of-Life Nursing Education Consortium）は、2000年に米国で開発された、エンド・オブ・ライフ・ケアや緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための体系的な教育プログラムです。2007年から国内においても研修会が開催され、エンド・オブ・ライフケアに関わる多くの看護師が受講しています。このプログラムでEOLに必要な知識や技術が習得できます！

・ 修了時にはELNEC-Jコアカリキュラムプログラム修了証を発行します。

・ 終末期を迎える患者様にどれだけ歩み寄れるか、患者様もそれを待っているかもしれないと思うと、早く臨床に向かいたくなりました。

・ 急性期での勤務経験の中で、準備期間のない患者の死ばかりを多く経験しました。時間がない中でも活用しケアに繋がられる視点を学べたように思います。

・ 小さな事柄から始めると習いましたので、少しでもベターかなと思うことを選択して、やっていきたいです。患者さん自身の生活であり、人生であることに敬意をもってケアを提供したいと思います。

・ これからまた看護の現場に戻る時には、自分の体験をひとりで抱えこまず共有し、質を高めたケアを長く提供し続けることができるように働きたいと思いました。

・ これから、就職すると思いますが、仕事の中で、普段の生活の中で、エンドオブライフケアについて、考えたり学んだりしていこうと思います。

(12) キャリア開発演習

- 講師：勝眞久美子（一般社団法人看護職キャリア開発協会代表理事、テキックス（株）常務取締役、ななーる訪問看護ステーション管理者）
- 共同企画：澁谷幸（神戸市看護大学）



看護師としての働き方を考え、転職、就職に向けて考えよう！

・キャリアとは「生涯を通した人生の生き方、表現である」と言われます。この演習を通して、「働く」ということの意味を振り返りましょう。そして、看護職としても、充実した人生を送るための自己のキャリアについて考えましょう！

- ・自身のキャリアを振り返る良い機会となりました。
- ・私は、臨床経験を積みながら、看護師が自分らしく働けて、多様な働き方ができる社会を創りたいと思いました。
- ・キャリア開発の講義を受け、自分とは何か価値とかを考えることにより、自分はこれからどのようにキャリアを積み上げて活きたいのかと考えるきっかけになりました。
- ・看護師として悩み辛い日々もありましたが、悩みながらも看護師としてのアイデンティティを見つめ続けてキャリアを切り開き、棚卸しを見つめ直し、丁寧にセルフケアを行いながらセンサーを大切に切磋琢磨して実行に移す事が出来ました。
- ・看護師は一度離れると知識面でも技術面でもなかなか現場に戻ることが大変な仕事のひとつだと思います。リカレント教育プログラムのような学びの場がいつもあるといいなと思いました。

(13) インターンシップ 一般病院・訪問看護ステーション・高齢者福祉施設

- 共同企画：堤恵美（神戸市看護大学キャリア支援室）

（訪問看護ステーション）

- ・インターンシップ施設は、みなさんの目指すキャリアや居住地等を考慮して決定します。
- ・あなたに合った施設での体験を通して、再就職のイメージを膨らませましょう！

（一般病院）

- ・色々な病院での看護師の働いている様子に触れていただきたいと思います。
- ・ご協力いただく病院は、神戸市立神戸アイセンター病院・神戸徳洲会病院・神戸掖済会病院です。
- ・いずれも、働き方には様々な工夫をされています

3つの分野のなかから
1つを希望できます！



（高齢者福祉施設）

- ・特別養護老人ホームの中でも、先進的で、1人1人の高齢者の生活と個別性を尊重し、多職種で協働しながらケアしている社会福祉法人きらくえんで働く看護師さんから学びます
- ・昨年リニューアルしたばかりで新しい施設：あしや喜楽苑での実習を予定しています
- ・高齢者施設や施設看護のイメージが変わると思いますので、是非この機会に行ってみてください

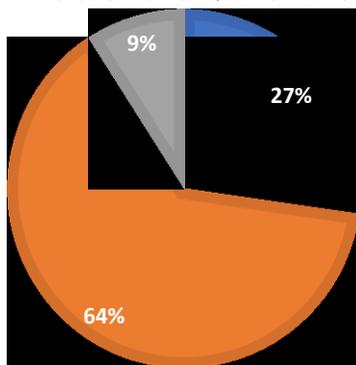
2. 【受講者対象】 アンケート結果

1) 受講生の状況

(1) 就業状況

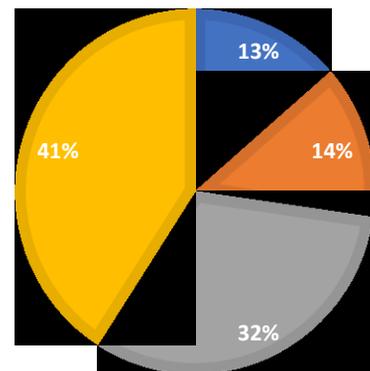
参加者の就業状況

- 就業していない
- 就業している
- 所属しているが、休暇期間中（育児、介護、療養など）



参加者の年齢

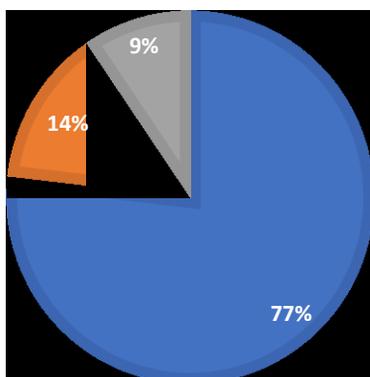
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代



2) プログラムの満足度

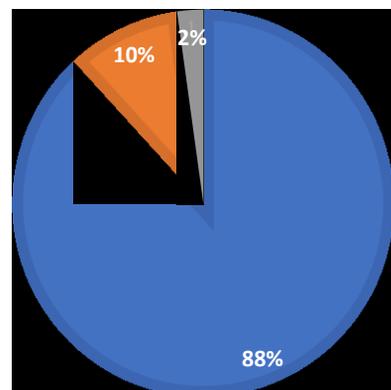
オンライン講義満足度

- とても満足
- 満足
- ふつう
- 不満
- とても不満



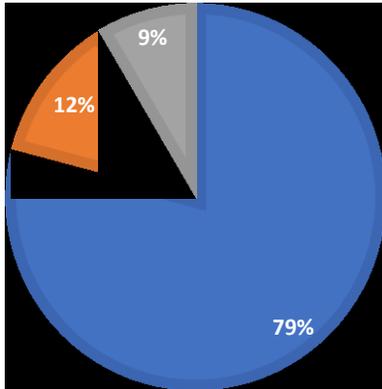
対面講義満足度

- とても満足
- 満足
- ふつう
- 不満
- とても不満



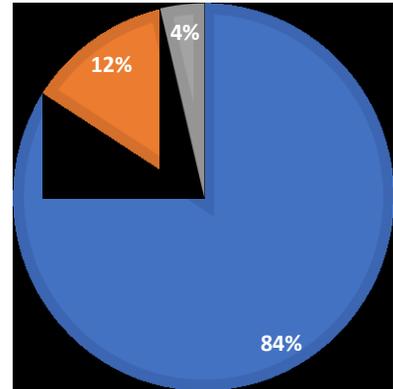
講義科目満足度

■とても満足 ■満足 ■ふつう ■不満 ■とても不満



技術科目満足度

■とても満足 ■満足 ■ふつう ■不満 ■とても不満

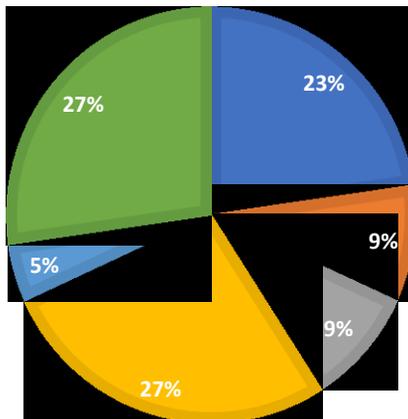


3) 就職・転職の意向とプログラムの効果

(1) 就職・転職の希望

就職・転職の希望

- 半年以内に就職を希望している
- 半年以内に転職（新しい職場に替わる）を希望している
- いつかは就職しようと考えている
- いつかは転職（新しい職場に替わる）しようと考えている
- 今の施設で正規雇用を目指している
- その他



(2) 就職・転職相談

5件

(3) 就職決定

4件

4) 特に印象に残ったことや感想、今後の就職・転職への展望等

- ・自らの看護の振り返りができ、新たな看護の現状を学習する事ができました。立場は違いますが集まった人達の看護への考え、思いを共感したり、勉強になったりととても充実した期間だったと思います。
グループワーク等、他の受講生たちと交流できる場が多かったので、そこで情報交換できたことや色々な話ができたととてもよかったです。皆さん色々な経験をされていて、意識の高い方々だったので私も頑張ろうと思えました。
- ・特に印象に残った事は、今の時代の流れにあった講義が受講出来たことです。
今後ですが、老年にかかわる職場に転職をしたいです。学んだ知識も活かしていけるような職場を探してみます。講義をうけるまでは、やりたい事が曖昧なところがありましたが、何がやりたいのか少し明確になり、次の職場探しに役にたつと思います。
- ・この期間集中的に学ぶことで、働いていたときの自分の看護への気持ちを蘇らせることができたのがとても嬉しかったです。また、リカレントでの学びと同時に一緒に学んだ方にお話を聞くことができたことで、なかなか出なかった復職への一歩として、派遣会社に登録し面接を受けるところまで進めることができました。
- ・参加者の人数が大人数でなかったため、オンラインや対面講義で一緒に学ぶ中で、お知り合いになり他の参加者の方々から沢山のエネルギーをいただき、一緒に学べたことが良かったです。看護の進展を再認識し、この研修を機に深めたい事や、さらなる学び直しの課題が自分自身で見つける事ができました。
- ・さまざまな角度から「看護」の可能性について知ることができ、とても充実した2ヶ月間でした。フットケア、糖尿病腎症に対する保健指導、在宅看護、エンドオブライフケアなどさまざまな分野で看護を極めている人たちと出会い刺激をいただいて、看護の場は病院だけでなくとても多様で色々な可能性があることを感じる事ができました。
- ・看護師としての技術、知識をブラッシュアップ、又新たな情報の収集が出来、とても感謝しております。こんなに充実した教育をもっと多くの看護師に受けて頂きたいと強く感じました。
- ・これから復職した先にも、折に触れて何度もこのように学び直す機会が持てる事が理想です。目まぐるしく責任の重い看護の現場だからこそ、そこから離れて学びの場から現場を見直してみる機会を持つことがあれば、より良い「看護」と自分との関わり方を考えながら、看護を一生の仕事として続けていけると思いました。

3.事業のまとめ

本プログラムの目的である、「就職・転職・正規雇用への移行」と「今後の働き方を一人一人が考えられる」の2つは、アンケートの結果や就職者・転職者数からほぼ達成できたのではないかと考える。

その要因の1つとしては、オンライン授業の比率を7割と高めたことで、育児・介護、働きながらなどでも参加できたことが挙げられる。また、各科目の満足度がとても高かったのは、オンライン授業・対面授業ともに、授業は双方向で行う、という方針が影響していると考えられる。

プログラムの内容では、全ての科目において肯定的な評価であったが、4つの看護技術については、自由記載のコメントにみられるように、これからの臨床で活用してみたい・早く臨床に向かいたい・高齢者の足を守りたいと思った等、実践力を向上することで、就職や現場に意識が向かっていたと考えられる。本プログラムの中核は、きらり！看護技術であり、今後のプログラムにおいても看護技術は中核として位置づけることが有用であると考えられる。

その他、プログラム開始前には予想していなかった成果として、受講生のコミュニティが生まれたことがある。受講生は、一人ひとりキャリアもプログラムへの参加動機もことなっていたが、学びを通して、お互いを理解し、さらに高め合う関係を築いていた。

最後に、受講生の『目まぐるしく責任の重い看護の現場だからこそ、そこから離れて学びの場から現場を見直してみる機会を持つことがあれば、より良い「看護」と自分との関わり方を考えながら、看護を一生の仕事として続けていける』の言葉にあるように、実践と学びを繰り返すことにより、自身のキャリアを生涯発達させることができる。

今後も、本プログラムを洗練させ、より多くの看護職の皆様へ学び直しの機会を提供するとともに、リカレント教育における大学の役割についても考え続けたいと思う。

講師一覧

	科目名	講師	所属	
地域包括ケア	地域包括ケア	米谷 久美子	神戸市立医療センター中央市民病院 地域医療連携課 課長	
	在宅看護	丸尾 智美	神戸市看護大学 在宅看護学	
	老年看護	石橋 信江	神戸市看護大学 老年看護学	
	がん看護	高山 良子	神戸市看護大学 慢性病看護学	
看護とケア 医療安全	ケアの倫理	小山 富美子	神戸市看護大学 慢性病看護学	
		丸山 浩枝	神戸市立医療センター中央市民病院 看護師長 小児看護専門看護師	
	医療安全	稲岡 佳子	神戸市立医療センター中央市民病院 医療安全管理室 看護副部長	
	感染制御演習	山本 達也	神戸市立医療センター中央市民病院 感染管理認定看護師	
新井 まゆ子		神戸市立西神戸医療センター 看護主任 感染症看護専門看護師		
看護技術	フットケア	西田 壽代	足のナースクリニック 代表 日本トータルフットマネジメント協会 会長	
		桜井 祐子	足の専門校SCHOOL OB PEDI 校長 日本トータルフットマネジメント協会 理事長	
	キネステティック	谷口 奨	日本動きの学習協会 総合教育ディレクター	
		小原 健太郎	日本動きの学習協会 総合教育ディレクター	
	糖尿病腎症予防	吉田 薫里	株式会社DPPヘルスパートナーズ	
		荒木 美名子	株式会社DPPヘルスパートナーズ	
	エンド・オブ・ライフケア		高山 良子	神戸市看護大学 慢性病看護学
			藤原 由佳	訪問看護ステーションあさんて・はな
			篠崎 智子	西脇市立西脇病院
			向井 美千代	公益社団法人 兵庫県看護協会 教育認定部 次長
鶴屋 邦江			医療法人実風会 新生病院 看護部長	
キャリア開発	キャリア開発演習	勝眞 久美子	一般社団法人看護職キャリア開発協会代表 理事、テキックス株式会社時常務取締役、 ななーる訪問看護ステーション管理者	
		堤 恵美	神戸市看護大学 キャリア支援室	
	インターンシップ	林 裕美	神戸市看護大学 キャリア支援室	
		石橋 信江	神戸市看護大学 老年看護学	
		丸尾 智美	神戸市看護大学 在宅看護学	

プロジェクトメンバーと役割

氏名	所属・職名	役割等
1池田 清子	神戸市看護大学・教授	リーダー、プログラム全体の遂行、関連機関交渉、報告書作成、看護技術担当(フットケア)
2小山 富美子	神戸市看護大学・准教授	副リーダー、報告書作成補助、医療安全・感染管理演習、地域包括ケア、看護とケア担当、看護技術担当(糖尿病腎症予防)
3柴田 しおり	神戸市看護大学・講師	メンバー、看護技術担当(キネステティック)、アンケート(講義)
4高山 良子	神戸市看護大学・講師	メンバー、看護技術担当(ELNEC-J)、時間割作成
5畑中 あかね	神戸市看護大学・講師	メンバー、看護技術担当(糖尿病腎症予防)、時間割作成、教室確保
6石橋 信江	神戸市看護大学・准教授	メンバー、地域包括ケア(老年看護)インターンシップ担当、看護協会との連絡調整
7丸尾 智実	神戸市看護大学・准教授	メンバー、地域包括ケア(在宅看護)インターンシップ担当、アンケート作成(外部機関)
8江川 幸二	神戸市看護大学・教授	メンバー、市民病院機構との連絡調整
9二宮 啓子	神戸市看護大学・教授	ダイバーシティ運営会議との連絡調整
		メンバー、市民病院機構との連絡調整
		ダイバーシティ運営会議との連絡調整窓口
10澁谷 幸	神戸市看護大学・教授	メンバー、キャリア開発演習企画
11林 裕美	神戸市看護大学・キャリア支援室・教務学生課係長	メンバー、キャリア相談担当、貸出し物品管理
12堤 恵美	神戸市看護大学・キャリア支援室・教務学生課係長	メンバー、キャリア相談担当、インターンシップ(一般病院)担当
13石光 利行	神戸市看護大学・経営管理課・総務係	事務担当者窓口、会計管理
14宮崎 綾花	リカレント教育担当事務員	総務一般、企画・運営、広報、会議に関する事務全般、受講者対応および、講義運営事務全般(オンデマンド配信含む)
15藤原 のり子	神戸市立医療センター 中央市民病院 看護部長	講師選定、募集協力、プログラム運営助言
16大路 貴子	神戸市立医療センター 西市民病院 副看護部長	講師選定、募集協力、プログラム運営助言
17永石 かずみ	神戸市立医療センター 西神戸医療センター 副看護部長	講師選定、募集協力、プログラム運営助言
18大迫 しのぶ	兵庫県看護協会 常任理事	広報協力、ナースセンター連携、キャリア相談フォローアップ
19小西 康之	神戸市看護大学 経理	事務担当 経理管理
20村上 敏隆	神戸市看護大学 総務	派遣職員の雇用管理・庶務事務支援
21前田 晃	神戸市看護大学 総務	広報 派遣職員支払い関係支援

公立大学法人
神戸市看護大学



〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

TEL (078) 794-8080 FAX (078) 794-8086

URL<http://www.kobe-ccn.ac.jp>

文部科学省「令和3年度DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」助成金